

地道な取り組みを継続と開拓

(宮城地連)

2012年8月22日 駅・スーパー・病院のタクシー乗り場で街宣行動

全自交宮城地本は8月22日東北地連の森茂書記長にも参加していただき東日本大震災で甚大な被害を受けた県東部石巻市と隣接する東松島市の矢本町において組織拡大行動を行いました。

石巻市は、津波により9社の社屋が全壊し、150両を超えるタクシー車両が流失され全国各地の事業者から義援車両や車両装備などが寄せられ復旧復興へ向けて懸命な努力がなされています。



そのような中であってJR石巻駅、矢本駅、また、その周辺の病院やスーパーのタクシー乗り場などで、被災地での厳しい状況の中で働くタクシー労働者への労をねぎらうとともに

全自交労連本部作成のチラシと宮城地本の組織拡大チラシを配布しながら併せて賃金、労働条件の実態についてのアンケート調査を実施致しました。

アンケートでは震災で流失された車両が元に戻りきっていないことなどもあり、平均の営収が37万円、賃率が48%、一時金0社、有給、最賃違反が共に2社ありました。特定地域の指定を受けていることもあり減車の政策については、震災で人口が減少し産業も衰退する中、大幅な減車が必要ではあるが、現状では被災し、職を失った人たちの労働力にもなっているので難しいという意見が多く寄せられました。矢本町では、下限運賃の事業者が1社あり、地域が狭いだけに大きな問題であり早期に解決してほしいと訴えていました。

宮城地本では今回の行動を機に大半が未組織である石巻地区で被災地での課題なども含め仲間への全自交加入の呼びかけとタクシー事業法の早期成立を訴え、地道な取り組みを継続し、開拓していくこととした。

また、帰路には、東北地連から拡大行動に駆けつけて頂いた森書記長が津波で全壊となった多賀城振興支部を訪れ、流失され、8月に再建されたばかりの新しい組合事務所で戸村委員長ら執行部への激励や組合員への差し入れなどをして頂き、さらなる復興へ向けての取り組みについて意見交換やアドバイスを受けました。